

2022 年度

国 語

最初に、以下の^{ちゅうい じこ}注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は^{かんとくしや}監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 問題冊子および解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受 験 番 号	
------------------	--

*解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 新説をトナえる。
- ② なりゆきをセイカンする。
- ③ ケンコウがすぐれない。
- ④ 生まれコキヨウに帰る。
- ⑤ 新記録をジュリツする。
- ⑥ フンキをうながす。

問二 次の熟語と同じ成り立ちのものを一つ選び、記号で答えなさい。

〔国立〕

- ア、温暖 イ、骨折 ウ、公害 エ、閉店

問三 次の四つの漢字は、ある共通する部首をつけると別の漢字を作ることができる。その部首名をひらがなで答えなさい。

同・岡・失・広

問四 次の四字熟語と似た意味のことわざ、または慣用句を一つ選び、記号で答えなさい。

〔一日千秋〕

- ア、木で鼻をくくる イ、耳をそろえる ウ、二の足をふむ エ、首を長くする

問五 次の()に入る漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

住めば()

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「……ママは猫が嫌いなわけじゃないわよ」

沈黙を破つたのは、雅さんだった。

仁菜は静かに 1 雅さんをにらむ。大人の言うことなんて信じるもんか、といった顔つきだった。

ぼくは最後まで、母さんにも父さんにも、そんなに怒りを感じたことはない。そりゃあ、大好きなアニメが始まった瞬間に陽向が大声で泣きだして、テレビの音が全然聞こえなくなってしまうようなときは陽向にイラツとするし、どつきたくもなるけど、でもこんなに激しい怒りじゃなかった。仁菜の燃え盛る炎のような怒りは、どこからわいて出てくるんだろう。

「ウソばかり！」

X 案の定、仁菜は雅さんの言葉をはねつけた。話を聞かずに席を立とうとする。

仁菜たちの親子げんかに巻きこまれてしまったぼくは、正直とっても気まずかった。テーブルの隅っこでだまりこみ、なるべくじゃましないように小さくなるしかない。

うちだって、しょっちゅう陽向がいたずらをしたり言うことを聞かなかったりして、母さんがどなりつけている。ぼくだって、陽向ほどじゃないけれどたまに怒られることもある。

でもそれって、こんな感じじゃない。こんなふうに、真つ向から母親に立ち向かっていくなんていうけんかにはならない。だからなおさら、① ぼくにはどうしていいかわからなかった。

「ママも昔ね、仁菜と同じように猫を拾ってきたことがあるの」

雅さんは静かに話し始めた。雅さんがなにを考えているのかはよくわからない。仁菜はそんな雅さんを、ぐりぐりの髪の毛の下からギラギラと光る目でにらみつけている。かんたんには納得しないぞ、という強い意志を感じる。

「仁菜よりもうちょっと小さいときだったかな。ママの妹、楓おばさんといっしょに遊んでるときに見つけて、餌付けしたらな

ついちちゃって、どうしても放っておけなくて、連れて帰ってふたりで泣いて頼んで飼わせてもらったの。白黒の、きれいな猫だった」

白黒の猫。ぼくはまたドッグフードで手なづけようとした野良猫を思い出した。もしかしたら雅さんは、あの猫を見ながら昔を思い出していたのかな。

「そのころは猫の飼い方なんてわからないし、病院に連れていくという発想もなかった。天気がいい日は外に出たがったから、適当に外にも出してた。そしたらある日、子どもを産んだの」

「赤ちゃん……」

仁菜が 2 息を呑み、^②にらみつけていた目つきがふとゆらく。

「小さくて、でもお母さんそっくりで、すごくかわいかった。だからみんな大事に育てた。そうすると不思議と、周りの人も捨て猫を見つけるとうちの前に置いていくようになって、かわいそうだからお世話をしているうちに、気がつけばうちの猫は十匹を超えてた」

「十匹！」

^③今度はぼくが抑えきれずに声をあげてしまった。

十匹なんて、想像ができない。ニケ一匹にだって家族じゅうが振り回されているっていうのに！

「そのうちに、最初に拾ってきた子が、どんどんやせてきたの。気がついたときには半分くらいの体重になって、そこで初めて病院に連れていったら、腎臓が悪くなった」

腎臓病は、猫によくある病気なのだと、雅さんは説明してくれた。

腎臓は、体の左右にひとつずつあるそら豆形の臓器で、体の中の水のバランスを調整している。たとえて言うなら水槽のろ過器みたいなもので、悪いものを外にくみだしたりしているんだそうだ。ぼくら人間の体にもあるし、犬や猫の体にもあって、同じように働いている。

猫は、高齢になると、その腎臓が壊れてしまう病気になることが多いのだと、雅さんは言った。ろ過器が壊れてしまう

と、体の水の調節がうまくできなくて体がからからに乾いてしまうし、悪いものはそのまま体にたまってしまう。

「腎臓は、一度悪くなるとう治らないんだって。点滴を^{てんてき}しに毎日病院に来てくださって言われた。そしたら、病院からの帰り道、おばあちゃんに言われたの。うちには毎日この子を病院に連れていくだけのお金がないって」

「じゃあ……じゃあどうなっちゃったのその猫ちゃん！」

仁菜は^Yいても立ってもいられない、といったようすで雅さんに聞いた。

「最初の一週間は、病院からもらったお薬を飲ませて、それだけ」

三ヶ月後、その猫は亡^なくなったのだと雅さんは^{たたん}淡々と話してくれた。最後はご飯も食わず、がりがりにやせ細ってしまったけれど、どうすることもできなかったのだと。体がどんどん冷えていき、最後にニヤアと、それまでの弱り具合からは考えられないくらい大きな声で鳴いて、息を引き取ったのだそうだ。

さすがに仁菜も、口を^a（ず、静かに雅さんの話を聞いていた。見たことのない、雅さんが拾った白黒の猫のことを考える。「それでね、ふと気づいたの。あと十匹以上いるって」

もし残りの猫たちが具合が悪くなったとしても、救ってあげることはできない。そう考えた雅さんは、中学生ながら猫たちのもらい手探しを始めたのだという。

ほくは、雅さんの気持ちが変わるような、わからないような、宙ぶらりんの気持ちのまま雅さんの話を聞いていた。

確かに病気になったとき、なにもしてあげられないのはつらい。でも大好きな猫たちと元気なままお別れするのもつらいんじゃないかな。

「高校生になってバイトができるようになったら、全部猫のためにお金を使ったわ。病院に行つてちゃんと不妊手術^{ふにんしゅじゆつ}をしてもらって、病気になっても治してあげられるようにお金もためて。でも結局、大学に入って家を出て、ひとり暮らしをして実家にもめつたに帰らない間に、最後の子もおしっこが詰^つまる病気で亡くなってしまった。そのとき決めたの、もう責任が取れない命を飼うのはやめようって」

今度は、家で遊んでいるはずのニケのことを考えた。仁菜が家に連れてきて、飼うことになった子猫。

考えてみれば、ニケはこの後もずっと生きるんだ。ほくや仁菜が中学生になって、高校生になって、それより大きくなっても、ニケは生きている。幸い父さんも母さんもニケにメロメロだから、面倒めんどうを見てくれなくなるってことは考えにくいけど、でもそんな先のことまで、考えたことがなかった。

スピスピと、静かにクツキーが鼻を鳴らした。

「クウちゃんは、どうなの」

仁菜が、長い長い沈黙を破った。いつの間にか目じりの赤みも取れ、少し落ち着いたように見える。

クツキーは、大きくなっても買い手が見つからず、ペットショップで売れ残っていたのだそう。毛があまり生えそろうわず、ちよつとみすぼらしかったらしい。仁菜がそんなクツキーを見つけて、飼いたいと泣いて騒さわいだという話も聞いたことがある。

「仁菜がどう思ってるかはわからないけど、クウちゃんはなにながあつてもしつかり責任を持つて面倒を見ようと思ってるよ、ママは」

クツキーは長いことペットショップの狭せまい空間で暮らしていたせいで骨が弱かったのか、家に来て数日で、自分で飛び乗ったソファから飛び降りて骨折ちりょうしたそう。

前に母さんが、骨折ちりょうの治療に相当お金がかかったらしい、と話していたのを思い出す。手術のために、ちよつと遠い大きな病院までわざわざ行ったそう。そのおかげで、いまでは問題なく飛んだり跳はねたり走ったりしている。

「かわいそうだからっていっても、なんでもかんでもはお世話できないの。だからあの子猫のこともダメって言ったの。クウちゃんのお世話もちゃんとできない仁菜に、」

仁菜が 3 口を横一文字に引き結ぶ。

「生き物を飼うってね、小さいときや飼い始めのものめずらしいときだけかわいがるんじゃないダメなのよ。その子を一生責任持つて育てられる自信がなければ、いたずらに手を出しちゃダメ。ママはそう思うな」

仁菜はなにも言い返せなかった。もちろんほくも。そこで話し合いは終わった。

「ごめんね玄太げんたくん、わざわざ来てくれたのに」

⑤ と思つて」

リビングのテーブルの前から一歩も動こうとしない仁菜の代わりに、雅さんが玄関^{げんかん}まで送ってくれた。

「いえ、あの、すいません」

「こちらこそ、この前はごめんね。子猫ちゃん見て、いろいろ思い出してつい
4 なっっちゃって。真季^{まき}にも今度ちゃんと話しておくね」

「ニケです、子猫の名前……最初、三毛猫じゃなくて二毛猫だと思ったから、ニケ。洗ったら、三色だったんですけど」

返事をする代わりに、言った。ニケはもう、ニケなんだ。どこにでもいる子猫じゃなくて、うちの猫、ニケ。それを雅さんにわかってほしかった。

「それ、もしかして仁菜がつけた？」

ぼくがうなずくと、雅さんはちよつとうれしそうに微笑^{ほほえ}んだ。

「ニナとニケなんて、姉妹みたいね」

独り言みたいに小さい声で、雅さんはそうつぶやいた。

「しょっちゅううちに来ては、熱心にニケの世話してました。……責任、感じてたんだと思うけど」

「そっか。……こんなこと、玄太くんに頼むのもなんだけど、ニケちゃん、責任持つてかわいがってあげてね」

ぼくはうなずいた。最初はなし崩^{くず}しで飼うことになってしまったけど、でもいまではニケはもう立派な家族の一員だから。ぼくのかわいい妹だ。

ニケにはできる限りのことをしてあげよう、と思っていた。ニケが大人になっても、ずっとニケの面倒を見続ける。きっとそれが、「責任」ってやつなんだろう。

⑥ ぼくは来た道を、とぼとぼと歩いて帰った。うちまでのわずかな道のりが、長いような、短いような。少し前まで、仁菜はこの道を何往復もしてニケに会いに来ていたのだと思うと、よけいに苦しくなる。

（片川優子『ぼくとニケ』（講談社）より）

問一

1 4

に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、ぐつと イ、はつと ウ、ぎろつと エ、かつと オ、ずつと

問二

線部 X・Y の本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。
X 「案の定」

ア、提案したように

イ、思った通りに

ウ、予想外に

エ、当然というように

Y 「いても立ってもいられない」

ア、落ち着いていられない

イ、怒りがおさえられない

ウ、叫さけばずにはいられない

エ、立ったままではいられない

問三

線部 a の () にあてはまることばを次の中から選び、適切な形に直して答えなさい。
口を () () ず (切る・割る・はさむ・そろえる)

問四

線部 ① 「ぼくにはどうしていいかわからなかった」とあるが、それはなぜか。その理由を三十五字以内で答えなさい。

問五

——線部②「にらみつけていた目つきがふとゆらく」とあるが、このときの仁菜のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、仁菜は母親に対して簡単に納得しないと思っていたが、自分の未熟さにふと気づかされて後ろめたさを感じている。
- 2、仁菜は母親に対して絶対に許さないと強い思いがあったが、子猫の話を聞いて自分が正しいか迷い始めている。
- 3、仁菜は母親に対して自分の気持ちを理解してくれないという強い怒りしかなかったが、少し気持ちがやわらいでいる。
- 4、仁菜は母親に対して強い憎しみしかなかったが、子猫の話を聞いてその憎しみが少しずつ良い方向に変化している。

問六

——線部③「今度はぼくが抑えきれずに声をあげてしまった」とあるが、このときの「ぼく」のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、十匹もの猫の世話には自分にはできないことだと驚いている。
- 2、十匹も同時に世話をしていた雅さんに感心している。
- 3、生き物を飼うことの難しさを知って不安になっている。
- 4、雅さんのいいかげんな飼い方に対して怒りを感じている。

問七

——線部④「雅さんは淡々と話してくれた」とあるが、このときの雅さんのようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、雅さん自身が仁菜に同じ思いをしてほしくなと思って、心を込めて語っている。
- 2、仁菜が理解しようとしてくれないので、厳しい現実の出来事を冷ややかに述べている。
- 3、雅さんにとっては早く忘れたい思い出だが、仁菜のために苦しい思いを伝えている。
- 4、仁菜にわかってほしくて、自分自身が体験したつらい事実だけを冷静に話している。

問八

⑤

にあてはまる適切なことばを、文中のことばを用いて二十字以内で答えなさい。

問九

——線部⑥「ぼくは来た道を、とぼとぼ歩いて帰った」とあるが、このときの「ぼく」のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、雅さんから聞いた様々な話をまだ十分に整理しきれず、複雑な思いを抱えている。
- 2、雅さんに何も言い返せなかったことが悔しくてたまらず、訪ねたことを後悔している。
- 3、仁菜の味方になってやることができなかった自分を情けなく思い、むなしさを感じている。
- 4、仁菜のために訪ねていったのに見送りにも出てくれず、さびしさをかみしめている。

問十

仁菜の人物像として、適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、大人に対して強い反抗心を持っていて、親の言うことにも絶対に耳を貸さないといい信念がある。
- 2、頑固な面もあるが、猫に対して優しい思いを持つなど、思いやりのある一面も持っている。
- 3、思い込みが強く、自分が正しいと思うと感情がコントロールできなくなってしまふことがある。
- 4、怒りやすいところもあるが、大人に対して信頼する気持ちも強く、冷静に話を聞くことができる。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ここからは私の考えですが、生物の成り立ちは「変化と選択」による進化の賜物であるとお話ししてきました。性に関しては、卵・精子・胞子などの配偶子の形成および接合や受精が「変化」を生み出します。

1 「選択」は、もちろん有性生殖の結果生み出される多様な子孫に対して起こりますが、実は子孫だけではなく、その選択される対象に、それらを生み出した「親」も含まれているのです。

2 親は、死ぬという選択によってより一族の変化を加速するというわけです。

当然ですが、子供のほうが親よりも多様性に満ちており、生物界においてはより価値がある、つまり生き残る可能性が高い「優秀な」存在なのです。言い換えれば、親は死んで子供が生き残ったほうが、種を維持する戦略として正しく、生物はそのような多様性重視のコンセプトで生き抜いてきたのです。

となると、極端な話、子孫を残したら親はとつと死んだほうがいいということにもなります。親は進化の【A】で、子より早く死ぬべくプログラムされているわけです。

ご存じのように、確かにそのような生き物はたくさんいます。前にお話ししたサケなどはまさにそうですね。サケは川の最上流まで頑張って行って、そこで卵さえ産めば「親はすぐ死ぬ」でいいのです。昆虫などの多くの小動物は、サケ同様、子孫に命をバトンタッチして「あとはお任せします」といった具合に死んでいきます。

自分たちよりも（多様性に富んでいるという意味で）優秀な子孫が独り立ちできるようになるまでは、しっかり世話をする必要がありますがあります。つまり子育ては、遺伝的多様性と同程度に重要ということになります。

ヒトのような高度な社会を持つ生き物は、単なる保護的な子育てに加えて社会の中で生き残るための教育が重要です。そのために、親は元気に長生きしないとイケません。親だけではなく、祖父母や社会（コミュニティ）も教育、子育てに関わります。ですのでヒトの場合は、親や祖父母の元気さ、加えて周りのサポートが大切になってきます。ヒトのみならず、大型の哺乳類

は成長して自活するまで親やコミュニティの保護が必要なので、基本的には同じです。そして重要となってくるのは、親の存在のみならず「子育て（教育）の質」です。これは「社会の質」と言ってもいいかもしれません。

ここまでを一旦整理します。

生物は、常に多様性を生み出すことで生き残ってきました。有性生殖はそのための手段として有効です。親は子孫より多様性の点で劣っている（せつ）ので、子より先に死ぬようにプログラムされています。

大型の哺乳動物は大人になるまで時間がかかるため、その間、親の長期の保護が必要となります。ヒト以外の大型哺乳動物、例えばゾウなども、生きる知恵を、親を含めた集団（コミュニティ）から学びます。

このような生物学の死の意味から考えると、ヒトの場合、親や学校なども含めたコミュニティが、子供に何を教えるべきか必ずと見えてきます。

4、必要最小限の生きていくための知恵と技術を伝えるのは当然です。昔で言うところの「読み・書き・そろばん」で、現代の義務教育の教科になります。これは社会のルールを理解し、協調して生活するための最低限必要な教育です。

ここからが重要ですが、次に子供たちに教えないといけないのは、せつかく有性生殖で作った遺伝的な多様性を損なわない教育です。ヒトの場合には、多様性を「個性」と言い換えてもいいと思います。親や社会は、既存の枠に囚われないようにできるだけ多様な選択肢を与えること、つまりは単一的な尺度で評価をしないことです。

加えて、この個性を伸ばすためには親以外の大人の存在が、非常に重要になってきます。自分の子供がいなくても、自分の子供でなくても。社会の一員として教育に積極的に関わることは、親にはできない個性の実現に必須です。特に日本は、伝統的に「家」を重んじ、しつけや教育をそこで「B」させる文化があります。子供が小さいときには、基本はそれでいいのですが、個性が伸び始める中学・高校生くらいからは積極的にたくさん「家の外のいい大人」と関わらせるべきです。私は、少子化が進む日本にとって社会全体で多様性を認め、個性を伸ばす教育ができるかどうか、この国の命運を分けると思っています。

他人と違うこと、違う考えを持つことをまず認めてあげないといけませんね。残念なことに日本の教育は、戦後の画一化したものに比べて良くなっています。b、まだそこまで若者の個性に寛容ではありません。若者が自由な発想で将来のビジョンを描

ける社会が、本当の意味で強い社会になります。

正直に言って、個性を伸ばす教育というものは、ともしれば型にはまらないことを良しとする教育なので難しいです。それを達成するための一番簡単で効率的な方法は、「本人に感じさせること」でしょう。親やコミュニティが自ら見本を見せることです。また、親の世代も含めた社会全体で多様性（個性）を認め合うことが大切です。「君は君らしく生きればいいよ、私がやってきたみたいにね」という感じです。子供の個性の実現を見て、親はその【C】を終えることができるのです。

補足ですが、^②个性的であることを強要するのは、違います。何が個性か、何が正解かは、誰も答えを知らないのです。それが多様性の一番の強みであり、予測不可能な未来を生きる力なのです。

そのような背景があり、老化を抑える研究なるものが登場しました。^③老化は自然な現象なので、医学として老化を抑えるというのは違和感がありますが、多くの病気は老化すると発症するため、その意味で老化の研究の価値はあります。また、そもそも老化そのものは、病気ではなく生理的な現象で、生物学の分野なので、医学だけでなく生物学としても老化研究が行われてきました。

- 1 それでアンチエイジング、つまり少しでも長生きしよう、という発想が出てきます。
- 2 そのため、どうしても教育する側の親やコミュニティの年長者は簡単には死ねません。
- 3 こうしてお話ししてきたように、ヒトのように社会を持つ生き物は、まず社会を生き抜く作法を覚える必要があります、教育に時間がかかります。
- 4 加えて先にお話ししましたが、ヒトは悲しみを共有する「感情の動物」であり、死にたくはないと思うものなのです。

死ぬこと自体はプログラムされていて逆らえませんが、年長者が少しでも元気に長生きして、次世代、次々世代の多様性の実現を見届け、そのための社会基盤を作る雑用を多少なりとも引き受けることは、社会全体にとってプラスとなります。です^④ので、長生き願望は決して利己的ではなく、当然の感情です。またヒトの場合、長生き願望は死に対する恐怖という側面もあり

ますが、その恐怖の根源には、しっかりと次世代を育てなければならぬ、という生物学的な理由があります。最低でも、子供がある程度大きくなるまでは頑張つて生きないといけななのです。

(小林武彦『生物はなぜ死ぬのか』(講談社現代新書)より)

注1・配偶子^{はいぐうし}……性が異なる生物からつくられ、互いに合体して新しい個体を発生させるための細胞。

注2・有性生殖^{ゆうせいせいじよく}……受精によって子孫を残していく方法。

注3・コンセプト……全体を貫く基本的な観点・考え方。

問一

1

4

に入ることをとばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、まず イ、一方 ウ、ただ エ、ところが オ、つまり

問二

【A】〜【C】に入る二字のことは次の漢字を組み合わせてそれぞれ作りなさい。

果 完 命 程 運 通 結 全 使 過

問三

線部 a 「な」と同じ用法のものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、大きな湖のほとりに立つ。 イ、豊かな自然に恵まれる。

ウ、絶対に油断するな。 エ、努力家なのは、よいことだ。

問四

——線部b「まだ」がかかる部分を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
まだ——ア——イ——ウ——エ——オ——
——ア——イ——ウ——エ——オ——
——イ——ウ——エ——オ——
——ウ——エ——オ——
——エ——オ——
——オ——

問五

本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直前（直前）にくる五字をぬき出しなさい。

しかし、例えばヒトのような、子供を産みっぱなしにできない生き物の親は、そう単純ではありません。

問六

……線で囲まれた部分の1～4を正しい順序に並べかえ、番号で答えなさい。

問七

——線部①「子より早く死ぬべくプログラムされている」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、優秀な親であれば、子供に対してより過保護となってしまうので、先に死なないと成長を妨さまたげる可能性があるから。
- 2、優秀な子供の成長において、親が長く生きることその成長を邪魔することがないようにしたいから。
- 3、多様性の部分で劣っている親が、優秀な子供よりも長く生きることに遺伝的な意味がないから。
- 4、親のほうが優秀な場合に、遺伝的に劣っている子供の活躍が期待できなくなってしまうから。

問八 — 線部②「個性的であることを強要するのは、違います」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の

中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、現在の教育内容では、それぞれの個性を伸ばすことはできないから。
- 2、個性は自分で見つけ出すもので、なければならぬものでもないから。
- 3、誰かに強要されなくても、個性は生まれながらに持っているものだから。
- 4、個性は社会を生き抜く作法として、必ずしも身につけなくてもよいから。

問九 — 線部③「老化は自然な現象なので、医学として老化を抑えるというのは違和感があります」とあるが、それはなぜか。

その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、医学の専門家として、人の老いを止めることは不可能だとわかっているから。
- 2、老化という自然現象を人工的に抑えることに対して、抵抗を感じているから。
- 3、医学の進歩により老化を抑えることが、もはや自然になりつつあるから。
- 4、老化が無ければほとんどの医学は、役に立たないものになってしまうから。

問十 — 線部④「長生き願望は決して利己的ではなく、当然の感情です」とあるが、「長生きすること」にはどのような意味

があるか。その内容を指している部分を文中から二十五字以内で探し、初めと終わりの五字をぬき出しなさい。

問十一

桜さんと林さんが『生物はなぜ死ぬのか』について、次のような会話をしています。あとの問いに答えなさい。

桜さん「私たちの遺伝子には、様々なプログラムが組み込まれているんだね。」

林さん「そうそう、でも遺伝子によって全て決まるのではなく、そこにはやはり【教育が重要】ということがすごく納得できたなあ。」

桜さん「私たちが学校で学ぶたくさんのことにも大きな意味があるんだね。」

林さん「私たちが学校で教わることは、算数や国語といった【教科】から（ X ）が大切だね。」

桜さん「そうそう、そして学校だけでなく、たくさん大人の大人と接することで学べることもあるんだね。特に私たちが大きくなるにつれて、【家の外のいい大人】から学ぶことも大切なんだ。」

林さん「そうすることで、私たちも成長することができるんだね。」

桜さん「でも、まだまだ私たちは他と違う考えを持つと、周りから白い目で見られてしまって、なかなか自分の意見を言いづらいこともあるよ。」

林さん「まさに【 Y 】だね。」

桜さん「そこから抜け出すためにも、私たちはまだまだ身近な大人から学ばなければいけないこと、そして大人に見守ってもらわなければいけないことがたくさんあるね。そして、そのためにも大人に長生きしてもらいたいなあ。」

(I) (X) にあてはまる内容を元の文章のことばを用いて四十字以内で答えなさい。

(2) 【 Y 】にあてはまることわざとして、適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、出るくいは打たれる
- 2、きじも鳴かずば撃たれまい
- 3、憎まれっ子世にはばかる
- 4、朱し。に交われば赤くなる

(3) — 線部 Z 「まだまだ身近な大人から学ばなければいけないこと、そして大人に見守ってもらわなければいけないことがたくさんある」とあるが、それはどのようなことか。元の文章のことばを用いて、二十字以内で具体的に答えなさい。

国語 解答用紙

受験番号
氏名

得点

問四	問二	⑤	①		
		問五	問三	⑥	②
				③	④

問九	問八	問五	問四	問二	問一	X	1				
						問十	問六	問三		Y	2
											3
											4

③ 問十二	② 問十二	① 問十二	問十	問七	問五	問二	問一	A	1				
								問八	問六	問三		B	2
													3
													4